

小牧市における高齢者の保健事業と  
介護予防の一体的な実施について

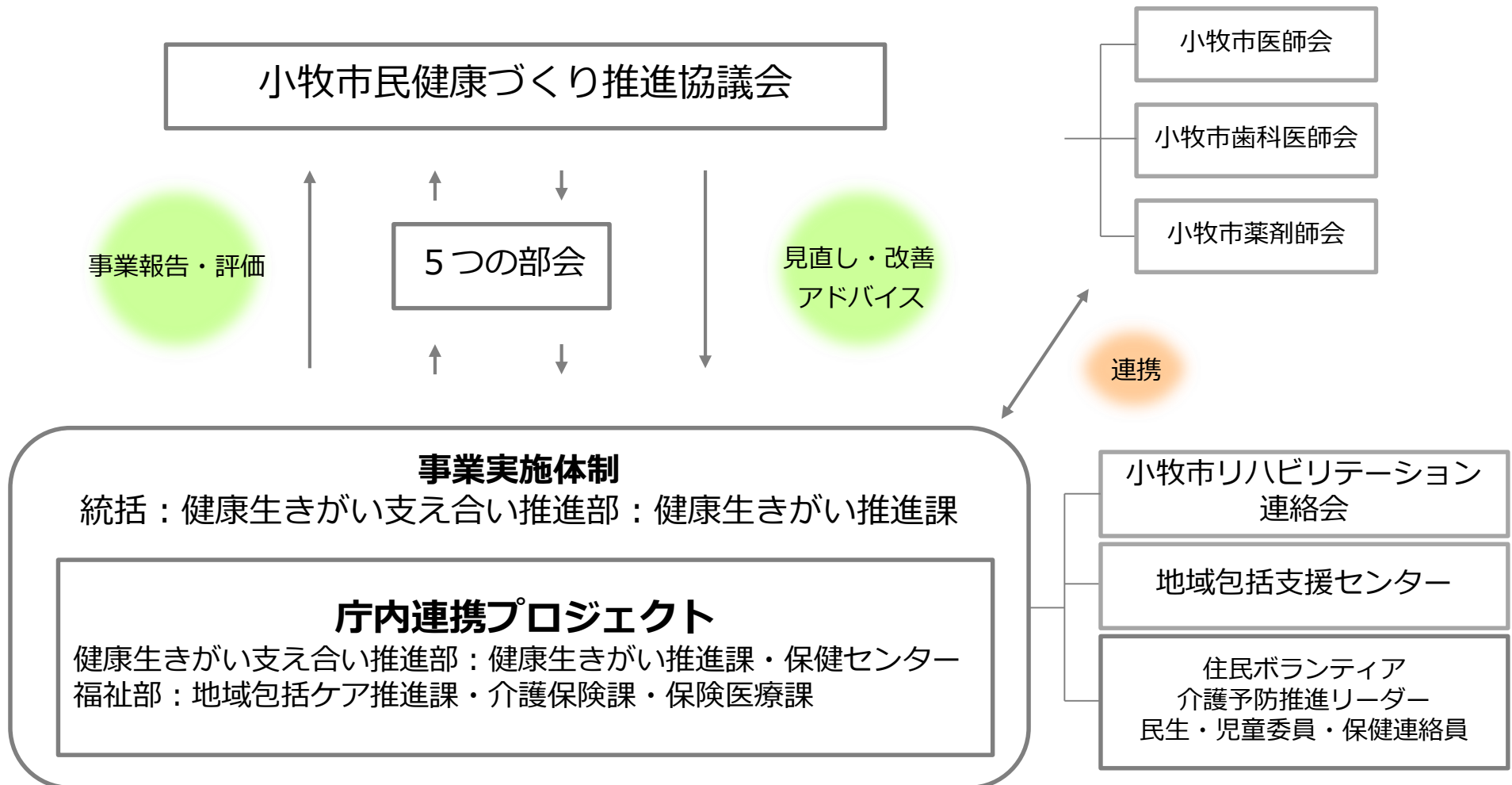
# 基本的な推進方針（案）

小牧市では、以下の基本方針に基づき、保健事業と介護予防を一体的に実施する。

1. あらゆる世代が健康でいきいきと生活できる「健康で生きがいのある明るいまち小牧」の実現に向けて、行政だけでなく、各種団体や企業、市民活動の中に「健康」の視点が浸透し、すべての市民が積極的に健康づくりに取り組み、互いに支え合う地域づくりを目指す。
2. 庁内関係課の職員で構成するプロジェクトチームが中心となり、医療・介護データの分析を行う。
3. 分析結果を踏まえ、地域を起点として、オーラルフレイル予防をはじめとする生活習慣病などの疾病予防、介護や認知症予防などのフレイル予防を一体的に推進する。

# 推進体制

健康事業と介護予防を効果的に推進するための協議、検討、評価を行うため、以下のような推進体制をとる。



# 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

## ・国が求める高齢者に対する支援内容

### ①ハイリスクアプローチ（高齢者に対する個別的支援）

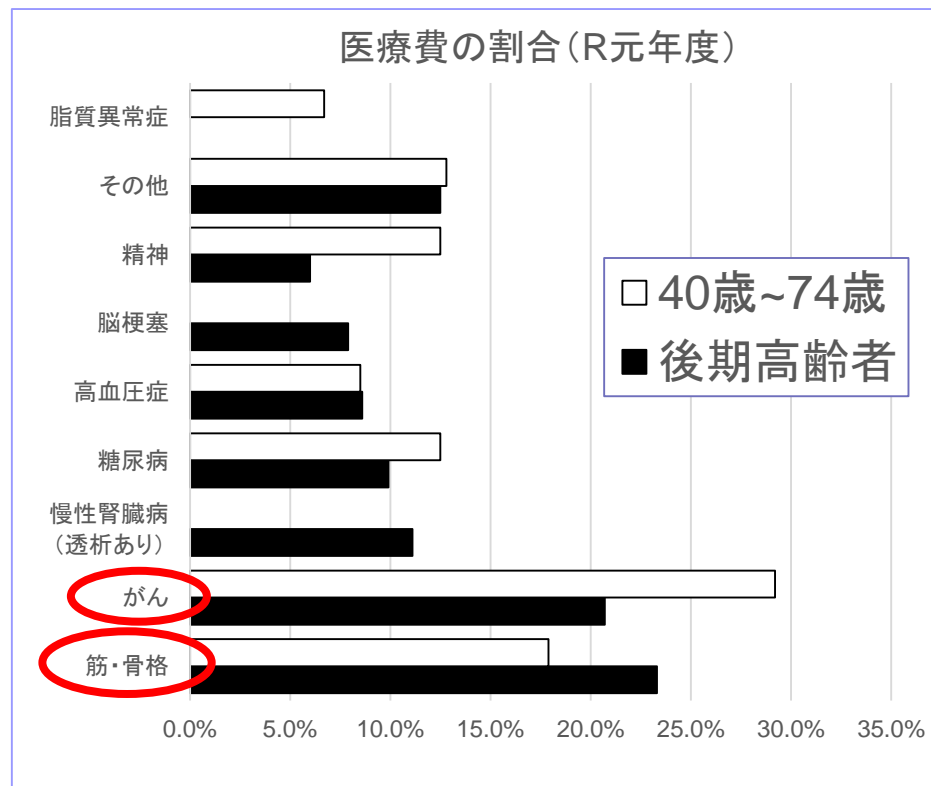
- 低栄養防止・重症化予防の取組
  - ・ 栄養・口腔・服薬に関わる相談・指導
  - ・ 生活習慣病等の重症化予防に関わる相談・指導
- 重複・頻回受診者、重複投薬者等への相談・指導
- 健康状態が不明な高齢者の状態把握、必要なサービスへの接続

### ②ポピュレーションアプローチ（通いの場等への積極的な関与）

- フレイル予防の普及啓発、運動・栄養・口腔等取組等の健康教育・健康相談を実施
- フレイル状態の高齢者を把握し、低栄養や筋力低下等の状態に応じた保健指導や生活機能向上の支援等を行う。
- 取組により把握された高齢者の状況に応じて、健診や医療の受診勧奨、介護サービスの利用勧奨などを行う。

# 後期高齢者のフレイル予防としての課題

KDBデータシステムから医療費総額をみると、40～74歳においては、「がん」が1位で、75歳以降では「筋・骨格系」が1位となっている。



→高齢になると、足や腰に痛みを感じ、外来診療が増えたり、転倒による骨折において、入院治療費がかさむことが推測される。

資料出典：KDBシステム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題 ⑩医療費の割合」より  
(R2.7.2抽出)

※レセプトに記載されている傷病名と適用から金額の最も高いと算出した傷病名を金額が高い順に表示

→通いの場において、フレイル予防の普及啓発として、運動や栄養、口腔（オーラルフレイル）に関する健康教育を実施していく。（保健センター）

また、筋力アップとなる体操（こまき山体操）の更なる周知と、後期高齢者の質問票（フレイルチェック票）を活用した把握を実施。（地域包括ケア推進課・健康生きがい推進課）

# 小牧市における健康課題について

## ・糖尿病重症化予防について

現在、保険医療課が主体となって、国保事業として実施。

対象は40～74歳に限られており、75歳以降の後期高齢者に対しては、健康診査を実施するのみで、その後の保健指導等は実施していない。

後期高齢者の糖尿病（生活習慣病）重症化予防として、後期高齢者へのアプローチを考えたとき、75歳以降で介護申請が増加することを踏まえると、それ以前の段階で、予防の取り組みをしていく必要がある。

### 今後の課題：

- ・市民全体を対象とした糖尿病重症化予防を実施していく必要がある。
- ・小牧市における健診体制、生活習慣病予防相談等の相談事業、ポピュレーションアプローチ及びハイリスクアプローチが連動して提供できるシステムの構築が必要である。

（保険医療課・健康生きがい推進課・保健センター）

# 健康状態不明者への対策

## ・健診を受けることの意義

- ・ 疾病の予防・重症化予防につなげる
- ・ 健診を受けることで医療費が下がる
- ・ 保健データとして健康情報を収集する

### 健診・医療費のクロス分析 単位：円

特定健診	外来	入院
保健指導参加 (積極的支援)	80,703	5,780
保健指導参加 (動機付け支援)	134,299	73,774
保健指導不参加	162,119	116,195

健診	外来	入院
健診受診あり	369,276	220,720
健診受診なし	460,913	383,853

KDBシステムより「健康スコアリング（医療）」より  
前年度の特定保健指導の参加・不参加の違いと健診受診あり・なしの違いで1人当たり医療費の相関を確認。

⇒健康状態不明者を把握し、傾向を把握する  
(健康だから受けないのか、重症化しそうな方が多いのか)

KDBデータシステムを活用した健康状態不明者の現状把握を実施予定。

健診、医療の直近3年間の受診歴がなく、介護認定を受けていない方に対し、フレイルチェックを行うことで、70歳～74歳、75歳以降においての健康課題の傾向を把握する。

(介護保険課・保健医療課・地域包括ケア推進課・健康生きがい推進課)